

「このままの
知多市で
いいですか」

元市税務課長の
目に映る「黄信号」。

服部はっとりひろし

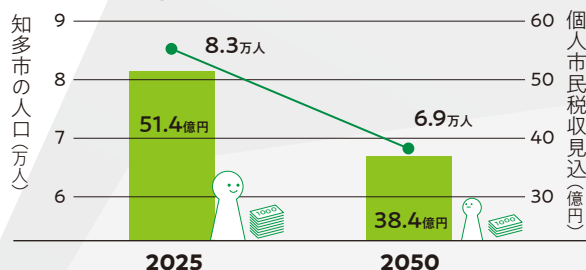
完全無所属 前知多市議会議員



服部ひろしの
目に映る

4つの「黄信号」

1 人口が減っている。 税収が減っていく。

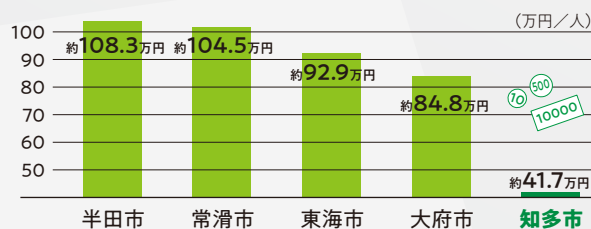


【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
知多市人口ビジョン

人が減れば、税収も細ります。国のデータによれば、2050年までに人口は約1.4万人減り、個人市民税も大幅に減ります。今まで通りの行政運営では「当たり前のサービス」が提供できなくなる可能性があります。

2 1人あたり小売額、 知多半島で最少。

人口あたり小売業年間商品販売額

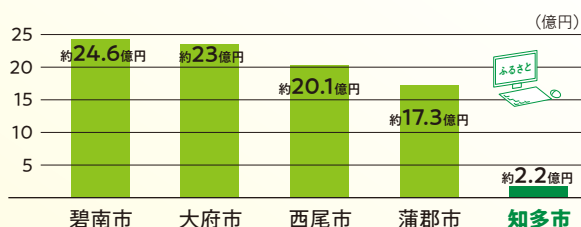


【出典】経済産業省「経済センサス」、総務省「国勢調査」

小売業の年間商品販売額は、知多半島の5市において圧倒的に低い水準です。身近に買い物先が少なく、日用品が遠いのが現実です。旭地区や東部地区には食品スーパーが不足しています。

3 ふるさと納税、 県内上位と大きな溝。

ふるさと納税寄付受入額(令和6年)

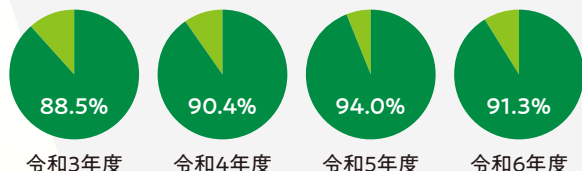


【出典】日本経済新聞

大府市など県内上位4市が安定的に寄付を集める一方、知多市の受入額は小規模で、市の財源確保に十分寄与していません。受入額では隣接する東浦町にも及んでいません。

4 固定費が約9割。 自由度の低い財政。

経常収支比率



【出典】知多市決算書

経常収支比率とは、毎年安定して入るお金のうち毎年必ず払うお金が占める割合です。知多市の経常収支を家計に例えると、収入1万円のうち約9,130円が固定費。自由に使えるのは約870円しかありません。



Hattori
Hiroshi



政策の順番を、しがらみから市民へ。
だから服部はこう考える。

暮らしの不便と将来の不安を減らすため、まず「生活の足元」から直さなければなりません。こどもと家計を最優先に、買い物不便の解消と、通学路の重点改善を。不要不急の大型建設事業を見直し、利用の多い施設や公共交通の維持・拡充が望まれます。ふるさと納税を増やし、入るお金も広げることで生まれた余力は、子育てと防災に集中させる必要があります。

今なら間に合います。これからも、
住み続けたいと思える知多市を、
共に目指しましょう。

X



instagram



HP

